

文学部の学びには、過去に起こった災害事象と復興、今後の災害予測、発災時の備えと率先行動などが包括されています。

ここでは、第 1 部として各コースでの実践的研究を紹介するとともに今後の課題について考えます。また、第 2 部として実際に発掘調査によってあきらかになったさまざまな災害と復旧、復興について、最新の成果を報告します。

第 1 部 (10:00 ~) 個別報告会

- ◎ 水難事故症例から「自分の身を自分で守る」ための方法を考えてみる ~ライフセーバーだって溺れることがあります~:
江川陽介 (教育学コース)
- ◎ 自己効力理論から防災教育を考える: 清水優菜 (初等教育コース)
- ◎ 震災後の心性: 秋山哲雄 (考古・日本史学コース)
- ◎ 「命を守る教育」実現に向けて: なぜ地理学が重要なのか:
小山拓志 (地理・環境コース)
- ◎ 災害とともに生きる能 —東日本大震災の事例から—:
倉持長子 (日本文学・文化コース)

第 2 部 (13:00 ~) 講演会

- ◎ 「古代遺跡の中の災害と復興」:
田中広明 (国土舘大学文学部非常勤講師)

11.3

10:00-15:00

SUN

「災害」と共に生きる

●会場
34号館B棟2階202教室

「大地震による地割れ後の集落復興のようす (平安時代)」
埼玉県深谷市上敷免遺跡

主催: 文学部 人文学会
広報企画委員会